



平成31年1月号

伏木小学校図書室

冬休みは、今まで読んだことのない新しい分野の本にチャレンジできましたか？
1月20日は越中万葉かるた大会です。高岡ゆかりの大伴家持や万葉集の本も読んでみましょう。

雪が見ながら「今年も豊作になって、みんなが幸せになりますように」と歌いました。

大伴家持（奈良時代の歌人）

新しい年が始まりました。
雪があとからあとからふついています。
この雪のようにめでたいことが、どんどんかさなりますように・・・

あじた
とし はじ
年の始めの
はっはる
初春の
きょう
今日ふる雪の
いや重げ吉事
おおとものやかもち
大伴家持

★越中万葉とは？

万葉集の代表的歌人であり編者ともされる大伴家持は、今から約1260年前、越中の守(長官)として、富山県に5年間赴任しました。その間に、越中の自然と風土のすばらしさをよんだ223首もの歌を残しました。この家持の歌を中心とした337首を「越中万葉」とよびならわしています。奈良時代の越中国の国庁は伏木の勝興寺の地にあったと伝えられています。

春の苑 紅にほふ～はじめての越中万葉～

春の苑/紅にほふ/桃の花/下照る道に/出で立つ娘。これは、万葉集の編纂で有名な大伴家持がつくった歌です。彼がすごした越中(富山県)での五年間を歌とともにたどっていきます。
絵はブダバーや精霊の守り人の挿絵を描いた高岡出身の佐竹美保さんが描いています。
越中万葉はこの絵本からはじめましょう。



大伴家持の生涯

氷見市出身の山下泰文さんが時代考証のもとで漫画という特徴をいかして波乱に満ちた家持の生涯を躍動感あふれる物語にまとめています。難しく思われがちな万葉集を身近なものにしています。



☆1月のおはなしかいのおしらせ☆

1月21日(水曜日) 1:15~1:25

図書室

はらぺこあおむし

あたたかい日曜日の朝、ぼん！とちっぽけなあおむしがうまれました。あおむしはおながかべっこぺこ。数や曜日をおりこんだ、食いしん坊あおむしの穴あき絵本です。



高岡と万葉

万葉のふるさと高岡を家持の歌とともに見直し、はるか昔のようすをしのびながら、万葉の世界を味わってみましょう。



絵草紙越中の家持

越中の風土と万葉人の暮らしを現代風に再現して、読者を古代へと誘ってくれます。



越中万葉を楽しむ

「越中万葉かるた」の世界をわかりやすく紹介しており、かるた大会のことや遊び方も紹介されてます。その他、高岡市万葉歴史館所蔵の万葉かるた10種も紹介。わかりやすい解説なので、小学生でも歌の世界をイメージできます。

